

第 20 回 唐津市子ども・子育て会議 会議録(要旨)

○開催日時

令和 7 年 8 月 8 日（金）午後 2 時～午後 3 時 40 分

○開催場所

唐津市役所 5 階 503・504 会議室

○出席委員

山口委員（会長）／浦本委員（副会長）／岸本委員／新井委員／保利委員／
前川委員／林田委員／石田委員／（着席順） 伊東氏（議長が必要と認める関係者）

○議題

- （１）唐津市こども計画（仮称）概要について【資料 1】
- （２）計画策定スケジュールについて【資料 2】
- （３）アンケート調査内容について【資料 3】
- （４）こどもの意見聴取について【資料 4】

○内容（要旨）

<定刻 1 分前開始>

<資料の確認> 資料 1～4 に加え、当日配付「会議次第」「委員名簿」「アンケート素案（再配付）」

<部長挨拶> 今年度新たに 4 名の委員が快くお受けくださり、ありがとうございます。
本会議は子ども子育て支援法に基づく会議、子育て施策を位置づける重要なもの。子ども・子育て支援事業計画を昨年策定し、今回は「こども計画」を策定。すべてのこども・若者が幸せに生活できる社会の実現を目指すもの。アンケートやこども・若者の意見聴取などを予定。支援をさらに充実できる実効性ある計画としたい。委員のみなさま、各お立場からのご意見をよろしく願います。

<会議成立の確認> 委員 12 名中 8 名出席により会議成立（+関係者 1 名出席）

<委員改選 4 名に伴い委員紹介> 名簿順に事務局より紹介

<事務局の紹介>

<会長挨拶> こども基本法による計画となる。努力義務なので作らない市町もあるかもしれないが、唐津市では作ろうということになった。こども大綱では 6 つの基本方針

が明記されている。6つの基本方針を考えながら、唐津市でどう計画を作るかを委員各位と討議していきたい。「こども・若者」の意見に加え、委員各位が現場においていろいろな形で声を受け取っていることも多くあると思うので、その声を大切にして計画に盛り込んでいければと思う。

<以降、会長により進行>

<議題>

(1) 唐津市こども計画（仮称）概要について【資料1】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

（会 長）昨年度の「子ども・子育て支援事業計画」と「こども計画」を一本化というところがよい。ありがたいことである。こども家庭庁のホームページではわかりやすい解説がされている。こども用の概要版や映像などは大事だと思う。ご意見は。

<特になし>

(2) 計画策定スケジュールについて【資料2】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

（会 長）質問はあるか。資料を見るだけでもハードスケジュール。委員の皆様もどんどん意見を言っていただきたくご協力をお願いしたい。

（事務局）庁内でも、男女共同参画や移住定住促進、生涯学習などさまざまな計画に携わる課が関わり検討していくものでもある。

（会 長）地域福祉や教育などの部署も関わってくるのだろうと思う。連携をしっかりとお願いしたい。

<他、特になし>

(3) アンケート調査内容について【資料3】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

（会 長）意見はあるか。委員の意見を踏まえてすぐにアンケート実施になる。ところでこれは回答にどのくらい時間がかかるものか。

（事務局）10～15分くらいの想定。早い人はもっと早いと思う。

（会 長）委員各位意見を聞きたい。

（委 員）無作為で3,000人抽出とのこと。旧郡部と市内はどのくらいの比率で発送するのか。あとは、先ほどの短いスケジュールで計画をまとめられるのか少し心配。

（事務局）地区については完全な無作為抽出で作為なし。男女は半々になるようにし

ている。計画をまとめられるかについては、昨年策定の計画がベースにもあり、アップデートや新しい事項を加えることが中心となるのでできると考えている。

(委 員) 回答すると特典などはあるのか。

(事務局) ない。

(会 長) 途中でやめられないかが心配。楽しく、ゲーム感覚とか工夫できれば。

(委 員) 25%の回収率想定となっているが、ゲームとまでいなくても、遊び心をもたせて、あと何問、とか、あとどのくらいとかの表示を楽しく示すなどでも。

(事務局) 試みる。

(委 員) 問6-2(外出の少ない人の理由)では、家族との関係性の中で親との関係性により外出できなくなったようなことは加えてはどうか。そういうこともあるかと。

(会 長) 言葉の配慮が必要なところだろうが検討してみてほしい。

(委 員) 設問が多く、自由記述のところで回答が止まりそうとは感じた。個人は特定されない作りだろうが、旧郡部と市内、どこに住んでいるかで回答も違うような気がする。ざっとでも聞いてみることはできないか。居場所でも交通でも家の周りの環境でも地域差があると思うので。郡部か旧唐津市内かくらいの別でも。

(事務局) どう聞くかも含めて検討してみる。設問は必須にはせず、答えたくないものは飛ばしてよいという設計にはなっている。

(委 員) 調査では目的を明らかにして設計すると思う。無作為に送付と聞いたが、すでにある程度の回答者イメージがあるのではないかと感じる。単純だがふりがなをふるなどバリアフリーのことを考えてはどうか。また、16~39歳ではライフスタイルが全く異なると思うが、各年代のライフスタイル・ステージから離れた人が答えにくいのでは。細かな文言について、最初の見出しでは「あなたご自身の」となっており、以降「あなたの・・・」がないのでここも「あなたの」をトルでよくないか。p5の問10のでは「・・・を含む」と「・・・も含む」が混在している。

(委 員) 全体に質問がわかりやすくまとまっていると思う。文章、選択肢の長いものは一画面には入らないだろうが。回収率が、想定通りになるかどうか、もし集まらなければ再度実施するのかな、と思った。

(事務局) 選択肢の長い(多い)設問は複数選択のもの。いくつでも選べるもので、下まで見て、また上を見て、という回答ができる。一つだけ選択の設問は最初に見渡したいところだろうが、それらは一画面に入ると思う。回収率に

より再度実施することは考えていない。

- (委 員) 質問が多いなという印象だった。こんなに長いものを携帯で見たらつらいかと思ったが、複数選択のものだけが項目が多いということもわかり、若者なら答えられるかなと思った。
- (委 員) 無作為で送る郵送費などもかかるだろう。高校生とか親の年代と思うが、自分もこども関係のアンケートをやっていてこどもの世話で中断した経験がある。学生年代なら学校などで答えてもらうのはよいのではないかと思った。お母さんたちには協力してもらえる人を、学校経由で依頼するなどして郵送費を節約して、その分を謝礼に回すなどしてもよいのかと思う。学校の協力で子どもや親といった、協力してもらえる人を狙った方が、費用的にも有利かと。そういう人を狙うのはどうか。
- (事務局) 次回以降の参考とさせていただきたい。途中でアンケートから出ても、再開できる仕様にはなっている。
- (会 長) 途中でやめた人の回答は集計に反映するか。
- (事務局) 途中でやめた人の回答はログとして記録は残るが有効回答としての集計対象にはならない。
- (委 員) 生活実態に関わることでこれだけの年代幅があってわかるのかという感じがした。登校拒否のようなことを聞く設問は今時どうなのかなと思うところもあった。
- (委 員) 登校拒否から戻った人は答えられるだろうが、登校拒否中の人は答えにくいだろう。
- (事務局) こども計画では、意見を出しにくい人の意見を尊重するということが言われている。表現は重くならぬようには作っているが、難しいところもある。
- (委 員) 高齢者でひきこもりの人は個別に配布しても答えてくれない。地域性は大きいとそこでも感じる。回答率が上がることで今後の政策検討になるだろうからそこに期待するしかない。
- (会 長) 情報がとれない、社会とのつながりない、といった人のつながりのきっかけになるのではないか。スチューデントサポートのチラシを同封するなど、質問だけではなく、しんどい人への相談先の情報発信として。案内状などを入れてもいいかなと。
- (事務局) 社会調査であり、フラットに質問のみ行うことが望ましく、支援や情報提供・PRと混在するのはあまりよろしくない。
- (会 長) P 6、f) の「地域」を「住んでいる周りで」など、わかりやすくしてはどうか。
- (会 長) このアンケートはいつから開始となるか。
- (事務局) 22日には案内状を発送する。アンケートフォームの公開までは少し間も

あるのでご意見があればうかがいたい。
＜他、特になし＞

(4) こどもの意見聴取について【資料4】

＜資料により事務局から説明＞

【質疑】

(会 長) これは16～39歳が一堂に会する形か？ 何人くらいの想定か。

(事務局) 10～15人くらいと考えている。

(委 員) 前回の高校生のヒアリングはどうやって集めたのか。

(事務局) 公募したが応募がなく学校推薦だった。

(委 員) いい子ばかりでなくいろんなこどもの声を聴くなら、クラス1名ずつなどまんべんなくできるとよい。社会人ではやはりある一定の職業についている人といった偏りが出るのではないか。

(会 長) これこそは何かおみやげ、謝礼があるといいのでは？ 何かあれば来てもらいやすくなり、特定の層に偏らない意見聴取ができそうな気がする。

(委 員) 前回の高校生ヒアリングでもお菓子などあったようだが、お昼ごはんをつけるとかはどうか。

(委 員) こどもの意見聴取、意見の吸い上げは良いことだし期待したい。アンケートは39歳まで、座談会は29歳までとしたのはなぜか。アンケートと同じにしない理由はあるか。地元の高校生と若い人が協力するような試みもあるとよいと思う。座談会は年齢幅が大きいので年齢を分けてもよいかと。アンケートとの整合性が気になる。アンケートは39歳まで、座談会は29歳までとなると出てきたデータなども整合性がとれなくなるのではないか。

(会 長) 16～29歳でも、高校生と20代など分けてはどうか。また、場所も含めて、話しやすい雰囲気づくりを。

(事務局) 市庁舎内のテラスなどがいまいかなとは思っている。土日休日の開催がよいかと思っている。

(会 長) ワークショップのような形式ならファシリテーターに市役所の若手職員が付く感じか。できればこども家庭課だけでなく地域づくりなど関係各課が入ってくれとよい。

(委 員) 座談会はやはり年齢幅があると話をしにくいと思う。中学生高校生と若者など、世代が近い(同世代)の方が話はずむと思う。ランチでなくとも行ってよかったと思う仕掛けがあるとよい。無理やり感があると楽しくないのではないかと思う。

(事務局) 仮に年代を分けたら、各年代に合わせたテーマ設定がよいだろうか。考えてみたい。

(委 員) アンケートの話に戻るが、年齢幅が広いから項目が多くなるのでは？ 対

象ごとにURLを変える、最初の年齢設問で分岐させるなどですっきりすればよいのではないかと思う。

(事務局) 国の調査では例えば未婚・既婚でも調査票を分けているが、年齢や属性ごとに調査を分けるのは運営上難しいこともあり、各層の設問を極力シンプルにしつつ合わせて一つの調査にしているのが現状案。属性等とのクロス集計で各層ごとの傾向はみていけると考える。項目数について、配付資料では条件分岐により回答者が絞られる設問も全て並べて記載されており、全員が全問に答えるということではない。

(委員) 市報でこの調査の協力願いなどは行うか。

(事務局) 行わない。広報はあまねく市民全体の広報が優先でもあるため。

(会長) 民間団体が、調査のことをSNSなどで案内してもよいか。

(委員) 子ども家庭センターに調査のQRコードを掲示しておくなどは？

(事務局) 無作為抽出された方以外は答えられない。案内状に確認番号があり、それを入れてもらうことで案内状が届いた人かどうかを判定する仕組み。

(会長) 貴重なご意見をいただいたので、できるところはアンケートに反映してもらえればと思う。次回の会議ではアンケートの結果が示されると思う。

<議事終了>

<閉会>

(会長) 7月の末に佐賀でこども家庭庁の説明があり話を聞いた。ここ5年くらいでこども家庭庁、こども大綱、こども基本法と次々に出て、変わっており、私たちでもついていくのが大変。これをどうわかりやすく市民や子育て中の人などに伝えていくかが大事と感じる。唐津市は柔軟に委員の声を聴く、と前回のこの会議参加者が言っていた。委員の皆さんもぜひどんどん声をあげていきましょう。

<終了>

以上